

2016 年第 56 号
(2016.4.5)

2016年ゴールデンウィーク(4/25~5/5)の旅行動向

節約志向はあるものの旅行の意欲は堅調
海外旅行人数は昨年より 2.8%増の 54.6 万人
国内旅行人数、総旅行人数は、ともに過去最高

← (調査対象期間) →

4 月								5 月							
22 日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日
金	土	日	月	火	水	木	祝	土	日	月	祝	祝	祝	金	土

JTB は、「ゴールデンウィーク（以下 GW）＜4 月 25 日～5 月 5 日の 11 日間（出発日基準）＞に、1 泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向の見通しをまとめました。

この調査は、1,200 人から回答を得た旅行動向アンケート、JTB グループの販売状況、航空会社の予約状況、業界動向などから推計したもので、1969 年に調査を開始して以来、今年で 48 回目となります。調査結果は以下の通りです。

(表1) 2016年GWの旅行人数、平均旅行費用、旅行消費額

	2016 年GW		2015 年GW
	推計値	対前年比	実績・推計値
総旅行人数	2,395.6 万人	+0.3%	2,389.0 万人
国内旅行人数	2,341.0 万人	+0.2%	2,335.9 万人
海外旅行人数	54.6 万人	+2.8%	53.1 万人
国内旅行平均費用	35,200 円	▲1.7%	35,800 円
海外旅行平均費用	259,000 円	▲1.5%	263,000 円
総旅行消費額	9,654 億円	▲0.3%	9,683 億円
国内旅行消費額	8,240 億円	▲1.5%	8,363 億円
海外旅行消費額	1,414 億円	+7.1%	1,320 億円

- * 旅行人数は延べ人数、平均費用は一人1回あたりの費用
- * 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ・旅行先での交通費・宿泊費・食費を含む

<2016年GW期間の旅行の特徴>

① 節約傾向はあるものの旅行意欲は堅調で、総旅行人数は、昨年より0.3%増の2,395.6万人

ここ数年回復基調にあった国内の景気は、春季労使交渉の賃上げが小幅回答にとどまるなど個人の収入の伸びが思わしくないことや、新興国を中心とした世界景気の減速から、先行きの不透明感が高まっている。総務省が3月29日に発表した2月の消費支出も実質では前年同月比▲1.5%となるなど、節約志向が強まっている。GW期間の旅行に関しては、節約傾向はあるものの、今回の旅行動向アンケートによると旅行意欲は昨年並みで(表2)、日並びもよいことから、国内旅行、海外旅行ともに昨年より増加する見込み。国内旅行人数は、2,341.0万人(前年比+0.2%)と微増、海外旅行人数は、2016年に入り日本人出国者は増加に転じており、国際情勢の影響などはあるものの、燃油サーチャージの値下がりや若干の円高から、54.6万人(同+2.8%)と予測する。

② 出発日:ピークは国内旅行が、4月29日と5月3日、海外旅行は、4月29日、30日と5月3日

今年は平日を2日休めば10連休、平日を休まずとも3連休が2回という日並びで、旅行日程については選択肢が多い日並びである。旅行会社の予約状況を見ると、期間全体を通し、4月の連休を利用しての出発が多いが、国内旅行は4月29日、5月3日の宿泊が多く、海外旅行は、アジア、グアム・サイパンなど近距離方面では4月29日、5月3日、米国本土、ヨーロッパ、オーストラリアなどの遠距離方面とハワイは4月29日と4月30日の出発がピークとなっている。

③ 平均費用:国内旅行平均費用、海外旅行平均費用はともに減少

国内旅行平均費用は35,200円と前年比▲1.7%、海外旅行平均費用は259,000円と前年比▲1.5%と推計される。国内旅行費用は、景況感に影響されることが多く、景気に多少足踏み感が出てきていること、旅行動向アンケート(表2)においても「支出をふやしたい」が15.0%と前年より1.7ポイント減少し、「支出を減らしたい」が27.1%と0.9ポイント増加していることから減少すると見込んでいる。海外旅行費用については、近距離方面の旅行の増加や燃油サーチャージの値下がりにより減少すると思われる。

(表2) 旅行支出に対する意向の変化(調査月ベース)

(単一回答)()は前年差。

	今回(2016年3月)	前回(2015年3月)	前々回(2014年3月)
支出をふやしたい	15.0 (▲1.7)	16.7 (+5.6)	11.1 (▲14.0)
支出は同程度	55.8 (+1.6)	54.2 (▲3.3)	57.5 (+1.9)
単価減らし回数増やす	9.8 (+0.7)	9.1 (▲0.9)	10.0 (▲5.5)
単価増やし回数減らす	7.1 (▲0.9)	8.0 (+0.1)	7.9 (+3.1)
単価も回数も同程度	38.9 (+1.8)	37.1 (▲2.5)	39.6 (+4.3)
支出を減らしたい	27.1 (+0.9)	26.2 (▲3.1)	29.3 (+12.2)

④ 今年のGWの傾向は、節約しながらも親しい人と楽しく過ごしたい

旅行動向アンケートによると、「利用宿泊施設」については、「ホテル」40.0%（対前年+3.0ポイント）、「実家・知人宅」27.2%（同+2.2）、「旅館」24.6%（同▲7.4）「民宿・ペンション」9.7%（同+2.7）であった。昨年より、「ホテル」、「民宿・ペンション」、「実家・知人宅」が伸びており、節約傾向がうかがえる結果となった（表6）。旅行の同行者について聞いたところ、「家族連れ」は69.2%（同▲0.8）と昨年とほぼ同じであったが、「友人と2～3人で」は昨年からの伸びが高く（13.8%、同+4.8）、今年は友人との旅行が増えそうである（表8）。旅行の目的については、「自然や風景を楽しむ」16.4%（同+3.4）、「リラックスする、のんびりする」10.3%（同+4.8）が昨年より伸びている（表10）。

<海外旅行の特徴>

① 日並びの影響で、選択肢が多く多様な旅行傾向に

今年のGWは、平日を2日休めば10連休、平日を休まずとも3連休が2回という日並びである。また、4月以降燃油サーチャージが0円となり、為替相場は昨年と比べ円高傾向である。海外旅行については、休みが取れば中距離・遠距離へ、3連休のどちらかの連休を利用して近距離へという多様な傾向がみえる。

② 遠距離方面はオーストラリア・ニュージーランド、短期間で行けるアジア方面も人気

国際情勢の影響もあり、欧州は前年比▲9.8%となる見込み。定期的に海外旅行に行く層は地域を選んで海外旅行に行く傾向も見られ、昨年より旅行人数が伸びる方面は、遠距離方面では、オーストラリア・ニュージーランド、短距離方面では中国・台湾・シンガポールなどのアジアが伸びている。比較的治安もよくファミリーや3世代で楽しめるハワイの人気も底堅く、座席供給量が上がってきている北米、カナダも堅調である。

(表3) 為替相場(東京外国為替相場/T.T.S三菱東京UFJ銀行調べ)

(単位:円)

基準日	1米ドル	1ユーロ	1英国ポンド	100韓国ウォン	1台湾ドル
2016年3月31日	113.68	129.20	165.92	10.06	3.49
2015年3月30日	120.26	131.18	181.39	11.02	3.81
2014年3月28日	103.06	141.76	173.59	9.77	3.01
2013年3月26日	95.05	122.42	146.68	8.7	3.13
2012年3月30日	83.19	111.3	135.34	7.45	2.79
(参考)					
2009年3月31日	99.23	131.34	144.45	7.23	3.49
2008年3月31日	101.19	159.69	204.11	10.31	3.29

(表4) 日本航空日本発方面別燃油サーチャージ(片道)

(単位:円)

	2016年 4月	前年との差額	(参考)			
			2015年 4月	2014年 4月	2013年 4月	2008年 4月
韓国	0	▲ 500	500	2,500	2,200	2,500
中国	0	▲ 2,500	2,500	7,000	6,000	6,500
香港・台湾	0	▲ 2,500	2,500	7,000	6,000	8,000
グアム、フィリピン・ベトナム	0	▲ 3,000	3,000	7,000	7,000	8,000
タイ・マレーシア・シンガポール	0	▲ 4,500	4,500	13,000	11,500	14,000
ハワイ・インドネシア・インド	0	▲ 6,000	6,000	16,000	15,000	14,000
オセアニア・北米・ヨーロッパ	0	▲ 10,500	10,500	25,000	23,500	20,000

<国内旅行の特徴>

① 節約傾向を反映し、関東、近畿が人気

旅行動向アンケートでは、関東、近畿、東北、甲信越への旅行を予定しているという回答が多い結果となった。東北は、桜が満開の季節を迎え、関東では開業 15 周年の東京ディズニーシー®、近畿では 4 月 29 日にオープンする京都鉄道博物館、15 周年を迎えたユニバーサル・スタジオ・ジャパンが注目を集めている。真田幸村ゆかりの甲信越地域も伸びている。「上田城」をはじめ、昨年改修が終了した「姫路城」や天空の城として人気の「竹田城」など近年「城」の良さが見直されている。

② 1泊2日の旅行が増加、増える自動車での旅行

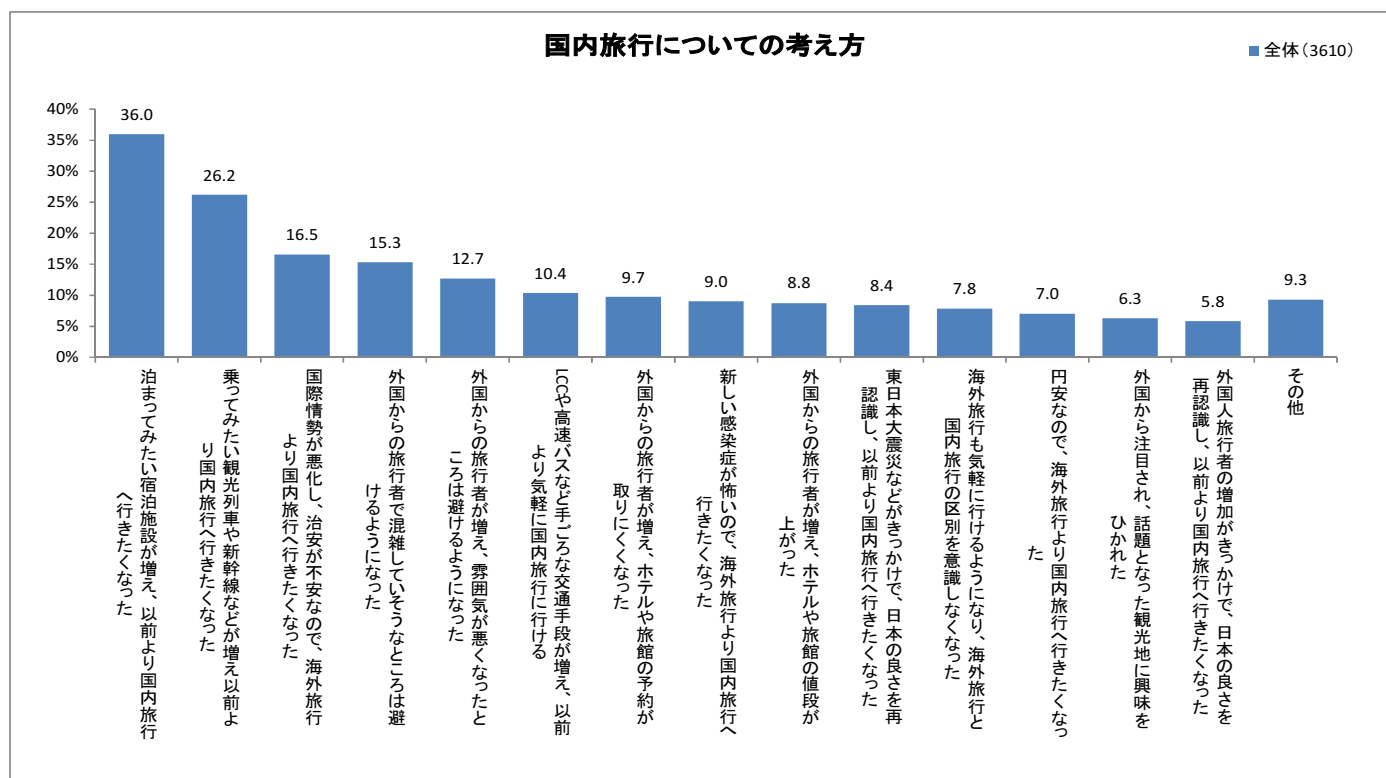
旅行日数については、「1泊2日」が 46.7% (前年比+6.2 ポイント) と最多で (表 11)、昨年より短期間の旅行が増加すると予測される。また、利用交通機関については、「乗用車」が 71.3% (同+2.8) と伸び率が高く、ガソリンの値下げが影響していると考えられる。「長距離バス」も 6.1% (同+1.1) と割合は少ないものの昨年より増加しており (表 7)、節約志向が見られる。

③ 旅先での過ごし方や宿泊施設・交通手段の選択肢が豊富に、訪日外国人に人気のスポットへの興味も増加

JTB 総合研究所が行った調査で「国内旅行についての考え方」について聞いたところ、「泊ってみたい宿泊施設が増え、以前より国内旅行に行きたくなった」が36.0%であった。地域における古民家の改修や整備による新しいタイプの宿泊施設の増加や「グランピング」*などの新しい宿泊形態の登場、女性専用カプセルホテルなど安価な宿泊施設も増え、選択肢が豊富になったことは、滞在することの楽しみが増えるとともに費用を抑える工夫も可能である。「乗ってみたい観光列車や新幹線などが増え、以前より国内旅行に行きたくなった」も26.2%あり、第三セクターなどの運営による地域の魅力を集めた観光列車が増えたことも「移動すること」自体を楽しむという新しい国内旅行の魅力となっている。「外国から注目され話題となった観光地に興味をひかれた」は6.3%あり、GW 時期に季節の花々が美しい「あしかがフラワーパーク」(足利市)、「羊山公園」(秩父市)、「ひたち海浜公園」(ひたちなか市)などは外国人にも日本人にも人気のスポットとなっている。

*「グランピング」: グラマラス (Glamorous=魅力的な、魅力のある) とキャンピング (Camping) を掛けあわせた造語。自然の中でありながら高級ホテル並みの豪華で快適なサービスが受けられる新しいキャンプの形。

(図2)国内旅行についての考え方 (全世代)



出典: JTB 総合研究所 「シニアのライフスタイルと旅行に関する調査」(2016)より

<旅行動向アンケート調査方法>

調査地点： 全国 200 地点
調査実施期間： 2016 年 3 月 4 日～16 日
調査対象： 全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人
サンプル数： 1,200 名
調査内容： 2016 年 4 月 25 日から 5 月 5 日に実施する 1 泊以上の旅行
(海外旅行を含み、商用、業務等の出張旅行は除く)
調査方法： 調査員による質問用紙を使った個別訪問調査

<報道関係の方からのお問い合わせ先>
JTB 広報室 03-5796-5833

(表5) 2016年GW(4/25~5/5 発)の海外旅行人数推計

(単位:千人)

	2016年	2015年	前年比
総数	546	531	+2.8%
アジア合計	335	324	+3.4%
韓国	78	83	▲6.0%
中国	87	75	+16.0%
香港	21	21	±0.0%
台湾	44	41	+7.3%
タイ	36	37	▲2.7%
シンガポール	16	15	+6.7%
インドネシア	14	14	±0.0%
マレーシア	11	11	±0.0%
その他	28	27	+3.7%
北米州合計	138	131	+5.3%
ハワイ	56	51	+9.8%
グアム・サイパン	26	27	▲3.7%
米国本土	48	46	+4.3%
カナダ	8	7	+14.3%
欧州合計	46	51	▲9.8%
大洋州合計	17	15	+13.3%
オーストラリア	11	10	+10.0%
ニュージーランド	4	3	+33.3%
南太平洋	2	2	±0.0%
その他 (アフリカ・中近東・中南米)	10	10	±0.0%

(表6) 利用宿泊施設(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	対前年
① 旅館	24.6	▲ 7.4
② ホテル	40.0	+ 3.0
③ 実家・知人宅	27.2	+ 2.2
④ 民宿・ペンション	9.7	+ 2.7
⑤ その他	2.6	▲ 2.9

(表7) 利用交通機関

(複数回答)

	%	対前年
乗用車	71.3	+ 2.8
鉄道	17.9	▲ 1.6
JR新幹線	14.4	+ 2.9
JR在来線・私鉄	6.2	▲ 2.3
長距離バス	6.1	+ 1.1
航空機	12.3	▲ 1.7
従来の航空会社	11.8	▲ 0.7
LCC	1.0	▲ 1.0
フェリー・船舶	1.5	▲ 0.5

(表8) 同行者

(単一回答)

	%	対前年
家族連れ	69.2	▲ 0.8
子供連れ(中学生まで)	30.3	▲ 0.2
夫婦のみ	20.5	▲ 0.5
その他(三世代・母娘を含む)	18.5	±0.0
友人・知人	17.9	+ 5.4
恋人・パートナーと2人で	4.1	+ 0.6
友人と2～3人で	13.8	+ 4.8
グループ・団体	3.6	▲ 3.9
ひとり	5.1	▲ 0.9

(表9) 旅行先(海外旅行を除く)

(単一回答)

	%	対前年
北海道	5.9	▲ 2.1
東北	11.3	+ 3.3
関東	25.3	+ 1.9
甲信越	10.2	+ 0.1
東海	9.7	▲ 0.9
北陸	3.2	▲ 3.2
近畿	15.6	+ 3.4
中国・四国	7.0	+ 1.1
九州	8.1	▲ 4.7
沖縄	3.8	+ 1.1

(表10)旅行目的(上位10位)

(単一回答)		
	%	対前年
① 自然や風景を楽しむ	16.4	+ 3.4
② 帰省、離れて暮らす家族と過ごす	13.8	▲ 2.7
③ テーマパークやレジャー施設	11.8	▲ 2.2
④ リラックスする、のんびりする	10.3	+ 4.8
⑤ 温泉を楽しむ	9.7	▲ 0.3
⑥ 家族と楽しく過ごす	9.7	▲ 0.3
⑦ 名所や史跡などを見る	6.2	▲ 4.8
⑧ 恋人・友人と楽しく過ごす	6.2	+ 2.7
⑨ 食事を楽しむ、地域の味覚を味わう	5.1	▲ 0.4
⑩ イベント・祭り・観劇・観戦など	3.1	+ 2.1

(表11)旅行日数

(単一回答)		
	%	対前年
1泊2日	46.7	+ 6.2
2泊3日	31.3	▲ 1.7
3泊4日	11.8	▲ 3.7
4泊5日	2.6	▲ 1.4
5泊6日	3.1	+ 0.6
6泊7日	1.0	+ 0.5
7泊8日	0.5	▲ 0.5
8泊以上	0.5	▲ 0.5

(表12)旅行に行かない理由

(複数回答)		
	%	対前年
① GWは混雑する	35.9	+ 3.6
② 家でのんびりしたい	25.4	+ 3.5
③ GWは旅行費用が高い	20.5	+ 2.0
④ 仕事などで休暇がとれない	19.2	+ 0.5
⑤ 他の時期に旅行に出かける	17.6	+ 1.9
⑥ 日曜・祝日が休みでない仕事なので	13.8	▲ 1.1
⑦ 家族・友人等と休日が合わない	12.6	▲ 0.1
⑧ なんとなく行く気にならないから	12.5	+ 1.3
⑨ 家庭の事情で家を離れられない	12.2	+ 2.5
⑩ 景気が悪いので支出を控える	11.8	+ 1.9
⑪ 旅行以外にやりたいことがある	10.1	+ 2.3
⑫ 特に旅行したい場所がない	5.2	+ 2.4
⑬ 訪日外国人が増え国内宿泊施設予約困難	2.5	-
⑭ 訪日外国人が増え国内観光地が混雑する	2.3	-
⑮ 今年のGWは長期に休みにくい	1.8	-

(表13)旅行支出に対する意向の変化(調査月ベース)(表2を再掲)

(単一回答) ()は前年差。

	今回(2016年3月)	前回(2015年3月)	前々回(2014年3月)
支出をふやしたい	15.0 (▲1.7)	16.7 (+5.6)	11.1 (▲14.0)
支出は同程度	55.8 (+1.6)	54.2 (▲3.3)	57.5 (+1.9)
単価減らし回数増やす	9.8 (+0.7)	9.1 (▲0.9)	10.0 (▲5.5)
単価増やし回数減らす	7.1 (▲0.9)	8.0 (+0.1)	7.9 (+3.1)
単価も回数も同程度	38.9 (+1.8)	37.1 (▲2.5)	39.6 (+4.3)
支出を減らしたい	27.1 (+0.9)	26.2 (▲3.1)	29.3 (+12.2)

(表14) 「ゴールデンウィークの旅行動向」推計数値(2000年～)の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額(億円)		
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	総数	国内	海外
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2000年 (4/27～5/7)	2,150.4 +4.2%	2,094.0 +4.1%	56.4 +6.0%	40,433 ▲0.5%	228,558 +7.1%	9,756 +4.8%	8,467 +3.6%	1,289 +13.6%
2001年 (4/26～5/6)	2,206.5 +2.6%	2,152.6 +2.8%	53.9 ▲4.4%	41,767 +3.3%	239,072 +4.6%	10,280 +5.4%	8,991 +6.2%	1,289 ±0.0%
2002年 (4/25～5/5)	2,169.3 ▲1.7%	2,120.3 ▲1.5%	49.0 ▲9.1%	39,595 ▲5.2%	246,005 +2.9%	9,600 ▲6.6%	8,395 ▲6.6%	1,205 ▲6.5%
2003年 (4/24～5/4)	2,090.7 ▲3.6%	2,067.3 ▲2.5%	23.4 ▲52.2%	38,983 ▲1.5%	254,369 +3.4%	8,654 ▲9.9%	8,059 ▲4.0%	595 ▲50.6%
2004年 (4/24～5/4)	2,169.8 +3.8%	2,116.9 +2.4%	52.9 +126.1%	39,334 +0.9%	245,720 ▲3.4%	9,627 +11.2%	8,327 +3.3%	1,300 +118.5%
2005年 (4/27～5/7)	2,175.5 +0.3%	2,121.1 +0.2%	54.4 +2.8%	38,890 ▲1.1%	253,180 +3.0%	9,626 ±0.0%	8,249 ▲0.9%	1,377 +5.9%
2006年 (4/26～5/6)	2,201.6 +1.2%	2,146.6 +1.2%	55.0 +1.1%	38,993 +0.3%	250,584 ▲1.0%	9,748 +1.3%	8,370 +1.5%	1,378 +0.1%
2007年 (4/25～5/5)	2,202.3 ±0.0%	2,148.7 +0.1%	53.6 ▲2.5%	39,100 +0.3%	251,700 +0.4%	9,750 ±0.0%	8,401 +0.4%	1,349 ▲2.1%
2008年 (4/25～5/5)	2,125.4 ▲3.5%	2,080.0 ▲3.2%	45.4 ▲15.3%	39,100 ±0.0%	254,700 +1.2%	9,289 ▲4.7%	8,133 ▲3.2%	1,156 ▲14.3%
2009年 (4/25～5/5)	2,178.6 +2.5%	2,129.9 +2.4%	48.7 +7.3%	36,900 ▲5.6%	213,100 ▲16.3%	8,897 ▲4.2%	7,859 ▲3.4%	1,038 ▲10.2%
2010年 (4/24～5/4)	2,220.9 +1.9%	2,169.2 +1.8%	51.7 +6.2%	36,100 ▲2.2%	224,400 +5.3%	8,991 +1.1%	7,831 ▲0.4%	1,160 +11.8%
2011年 (4/24～5/4)	2,035.0 ▲8.4%	1,981.3 ▲8.7%	53.7 +3.9%	33,800 ▲6.4%	209,600 ▲6.6%	7,823 ▲13.0%	6,697 ▲14.5%	1,126 ▲2.9%
2012年 (4/25～5/5)	2,260.8 +11.1%	2,201.2 +11.1%	59.6 +11.0%	34,900 +3.3%	210,000 +0.2%	8,934 +14.2%	7,682 +14.7%	1,252 +11.2%
2013年 (4/25～5/5)	2,331.7 +3.1%	2,278.2 +3.5%	53.5 ▲10.2%	35,900 +2.9%	230,800 +9.9%	9,414 +5.4%	8,179 +6.5%	1,235 ▲1.4%
2014年 (4/25～5/5)	2,318.3 ▲0.6%	2,267.9 ▲0.5%	50.4 ▲5.8%	34,400 ▲4.2%	249,500 +8.1%	9,060 ▲3.8%	7,802 ▲4.6%	1,258 +1.9%
2015年 (4/25～5/5)	2,389.0 +3.0%	2,335.9 +3.0%	53.1 +5.4%	35,800 +4.1%	263,000 +5.4%	9,683 +6.9%	8,363 +7.2%	1,320 +4.9%
2016年 (4/25～5/5)	2,395.6 +0.3%	2,341.0 +0.2%	54.6 +2.8%	35,200 ▲1.7%	259,000 ▲1.5%	9,654 ▲0.3%	8,240 ▲1.5%	1,414 +7.1%

* 調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。

* 平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

* 国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。